

広 報 委 員 会

広報委員会
委員長

中森 一吉

私は、創刊号当時の広報委員長でしたのでこの度、2度目の広報委員長に就任しました。また、この間に副委員長を3回経験しており、全国競売評価ネットワークの活動にどっぷりと浸かっている感じです。ネットワーク設立当初、広島高裁ブロック理事として上京し、2回目理事会にて事務局長の田辺理事より、突然広報委員長の要請があり、副委員長に就任した高知の伊藤理事と2名で広報委員会を立ち上げました。

まず、ネットワークの会員をはじめ競売関係に携わる裁判官・執行官の皆様へ配布発行することを念頭に会報誌のネーミング、表紙の写真・題字のレタリング、全体の構成等について各県不動産鑑定士協会が発行している会報誌を参考にして企画・編集を行いました。また、活字ばかりでは全体が重くなるため、添付写真の活用や無償広告の掲載等も行いました。なお、当時は、沢山の作業を1人で抱え込んでいたため広報委員会報告掲載をすっかり忘れていました。

さて、平成22年度広報委員会は、全国の高裁ブロックから広報委員として9名の選出メンバーが集まりました。まず札幌ブロックの石川明委員（新任）、仙台ブロックの千葉和俊委員（再任）、東京ブロックの小森秀夫前委員長（再任）、名古屋ブロックの中西光男委員（再任）、大阪ブロックの名手孝和委員（再任）、高松ブロックの清水卓委員（新任）広島ブロックの中森一吉（再任）、福岡ブロックの福井章夫委員（再任）新たにサイト管理人として大阪ブロックの北川忠志委員（新任）です。また、広報委員会担当理事として東京ブロックの石田清巳理事、広島ブロックの田原寛

理事も参加しました。

委員会開催は、例年通り新橋の航空会館にて第1回は平成22年7月17日(土)、第2回は平成22年10月23日(土)、第3回は平成23年2月19日(土)の計3回です。

広報委員会活動としては、まず最初に毎年開催される全国競売評価ネットワーク総会時に配布される会報誌の発行を目的としており、その後会報誌は全国の各県競売評価事務研究会へ発送します。

次に、ホームページの管理運営です。新年度を迎えても理事会・委員会メンバー等の変更が遅く、代わり映えのしない内容にご批判を頂いておりますが、迅速に対処できるように体制を整えました。

会報誌KBネット第8号については、会報誌の顔である表紙写真は地元開催地の首里城を採用しており、カメラアングルを駆使した迫力ある写真となっています。この企画は、数年前より各開催地の広報委員、評価人に掲載写真の提供をお願いしており、担当広報委員の腕の見せ所でないかと思えます。

そして、千葉代表理事の挨拶では、競売不動産評価基準作りの経緯をメインに将来の指針についての見解等を頂きました。特別寄稿では、東京弁護士会の吉峯先生より『財産権の保障と司法競売制度について』の原稿を頂きました。

さらに、寄稿においては、函館地方裁判所の蓮井俊治総括判事、高松地方裁判所の江尻禎裁判官、福岡地方裁判所の家原尚秀判事、福井地方裁判所の平野剛史判事、広島地方裁判所の丹下将克裁判

官、仙台地方裁判所の佐藤俊也執行官、大阪地方裁判所の山森祐輔総括主任書記官、津地方裁判所の伊藤善則主任書記官、東京ブロックの菱村千枝評価人以上9名の皆様から頂きました。日常業務の多忙な中、執筆していただき、厚くお礼申し上げます。

各県競売評価事務研究会よりのブロック報告については、毎年の報告事項のため研究会活動以外のお国自慢、トピックス、添付写真の投稿等をお願いしました。

その他、事務局便りは、例年通り市川洋介事務局長をお願いしました。いつも縁の下より支える事務局の存在なくして我々ネットワークの活動はあり得ません。今回で退任する市川洋介事務局長には、大変お世話になり感謝に堪えません。本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

編集後記は、沖縄総会開催と九州新幹線の全線開通など地元アピールを兼ね福岡ブロックの福井委員（鹿児島）にお願いしました。

最後になりましたが、広報委員会は、他の委員会と同様、委員に就任していただける人が少なくなっています。委員の参加は、ボランティア活動ではありますが全国から評価人が集まり顔を合わせ、意見を述べ、地域の情報交換・交流により各地域の温度差を肌で感じるが必要でないかと思えます。今年度の広報委員会メンバーは、ジャズの好きなライダーマンやカントリーミュージシャンさらに造り酒蔵の経営者など多才かつ豊富な人材（財）に恵まれました。

日本中から多くの評価人が集結して、知恵を絞りつつ全国競売評価ネットワークを更なる発展へ邁進することを期待します。



第3回広報委員会風景 新橋航空会館にて